終章-⑥　スーパーマインドとともに

<スーパーマインドとともに>(P295~)

-心の灯を自分の意志で拒否するな

人間の悩みは、挙げて、心の死を知いているためである。ころしてわれわれはパニックのうちに駆けずり回わる。まるで夜陰、敵の陣列の背後に紛れこんだ兵士のようにだ。われわれは明々白々たる事実をすら見損う。たと

心の灯がないというのは、灯を頑強に、しかも自分の意志で拒否するということであって、そこから自己矛盾が生じてくる。人は自分が準拠して生きている言条にあくまでもしがみつき賞讃すらする。だが本当は悲惨な人生

われわれの災厄の根拠が、心の誤用にあると知ることはよいことである。心を正しく使えばわれわれを正しくすることができるということだからである。

あなたの炉に盛んな火を燃えたたせるためには、ある種の手順が必要である。マッチで紙に点火し、鐘層に炎を移し、それから芽へ燃え移させる。その後適宜に芽を一本一本と追加する。最初にマッチでの点火がうまくいか

同じように、あなたは、あなたの内的な火を絶えず『スーパーマインド』の秘教的なアイディアで燃え盛らせなければならない。そのためには、熱心な、同じような心をもった人々とのディスカッション、そして毎日の自己

初めは自分自身へ若干のストレスをかけることもあるが、しばらく経てば、あらゆることを易々としてまた歓びをもって行なえるようになる。（トーマス・ア・ケンピス）

『スーパーマインド』を再読するうちに、あなたは、自分のために特別な意味をもつと思われるいくつかのアイディアに突き当るだろう。これらのアイディアは、愉しい省察を更に加えていけば、ますます価値が増してくる

ではー

Revision #2
Created 8 November 2024 03:01:49 by ゆう
Updated 8 November 2024 03:03:47 by ゆう